

## 第2回 THE シガパークビジョン検討委員会 議事要旨

開催日時：令和7年12月24日（火） 9：30～11：30

開催場所：滋賀県危機管理センター

出席者：上田 洋平（滋賀県立大学地域共生センター）委員

福井 亘（京都府立大学 生命環境科学研究科）委員

高木 浩文（公益財団法人 淡海環境保全財団）委員

辻 祥子（滋賀県シェアリングネイチャー協会）委員

廣瀬 香織（一般社団法人ママパスポートコミュニティ）委員

岩寄 博論（武蔵野美術大学 造形構想学部）委員（Web）

宮本 麻里（合同会社LOCO）委員（Web）

（敬称略）

議事：1 開会

2 議題

第1回THE シガパークビジョン検討委員会議事録について 資料-1

利用者等への公園に関する意見聴取結果について 資料-2

THE シガパークビジョンの方向性および骨子（素案）について 資料-3

3 閉会

議事要旨：

①第1回THE シガパークビジョン検討委員会議事録について

・事務局より、第1回THE シガパークビジョン検討委員会の議事録を説明。

②利用者等への公園に関する意見聴取結果について

- ・一般アンケートも結果は委員会資料を公表する形でフィードバックし、分析した結果をビジョンに反映する。
- ・公園ごとの集計をする際は実数が少ないため県内外を合算した方がいい。
- ・自由意見は大変興味深い。マイナス点は対症療法的ではなく長い視点で補完することが大切。
- ・アンケート結果（速報）で県民の皆さんのニーズがある程度みえてきた。今後、年代ごとにクロス集計すると、それぞれの特徴がみえてくる。
- ・THE シガパークの認知度を浸透させていくことで、県民が公園の新たな価値を考えるきっかけになり、非常に重要である。

③THE シガパークビジョンの方向性および骨子（素案）について

- ・ビジョンが20年、30年と続いていくためには、公園を日常的に利用する県民がどう関わっていけるかが鍵になる。
- ・誰に向けたビジョンなのか念頭に置いて考えるべきである。
- ・「THE シガパーク」と「シガパーク（個別の公園）」の違いが、わかりにくいため、個別の公園の呼び方を検討した方が良い。
- ・「THE シガパーク」の定義は、元々の定義「びわ湖を中心とした滋賀県が一つの大

きな公園であるかのように、すべての人の憩い・交流・体験の場となることを目指し、県の公園全体の魅力向上を図る取組です。」の方が明確である。

- ・行動計画は、計画期間中にも問題は必ず発生するため、臨機応変に対応できる仕組みを設けると良い。
- ・将来あるべき姿として「時代を超えた公園」と「20~30年後の公園の姿」の二本立てになっているが、この構造が非常に分かりにくい。「時代を超えた公園のあるべき姿」は抽象的な表現になると思うが、これを上位に置き、それを踏まえた上で具体的な20~30年後の姿を一本にまとめる方が分かりやすい。
- ・計画の年限が短期（5年）、中期（20~30年）、長期（世代を超えて）の3つに分かれているが、それぞれの役割を明確にすることが望ましい。
- ・「トイレのリニューアル完了」や「協働による維持管理の実施」といった項目は、「将来あるべき姿」ではなく、具体的な数値目標も入れた「行動計画」に記載すべき。
- ・将来あるべき姿（ビジョン）は、「その時点で県民が公園でどのように過ごしているか」といった利用者の姿を描くべきである。
- ・「ボランティア」という言葉は、捉え方が限定的になる傾向があるため、より包括的な「地域コミュニティ」というキーワードを用いることで、多様な主体が自分ごととして連携を考えやすくなる。
- ・一般の公園利用者が、計画の当事者であると感じられるような表現をロードマップに盛り込む必要がある。
- ・「将来あるべき姿」の項目は、あまり多くの文章を読まない子育て世代などにも伝わりやすい内容にすることが求められる。
- ・ビジョンは、県としてどうしていきたいのかを明記することがポイントである。
- ・基本理念にある「美」と「優」と「楽」に加え、人が集う場所、あるいは人と人がつながる場所という役割があることから、「結（ゆい）」のような、人と人を結びつける概念を表すキーワードを盛り込んではどうか。また、健康しがの視点、「健やか」というキーワードを含めることを提案する。
- ・公園で「健やか」になること、一方で公園をどう「健やか」にしていくかの視点は重要である。
- ・ビジョンの対象は、レジメにある「県営公園」という表現より、自然公園もあるので「県が管理公園」と整理するのが適切である。市町が管理する公園を対象とするには、どこでこのビジョンをオーネライズするのかという問題があり、手続き上困難であるため、「情報共有」や「連携・協力」という形での関与が妥当である。
- ・「対象分野」の表現が分かりにくいため、ハード・ソフト事業の区別や、他部局の施策との関連性について整理が必要。
- ・滋賀県全体の人口推計だけでなく、人口動態が大きく異なる都市部と農村部（北部・南部など）の状況を分けて考える必要がある。
- ・公園へのアクセスや自然に触れ合える場所である公園の生物多様性などについても配慮して案を作成して欲しい。

以上